

## 全学年 防災学習 学習指導案

田辺市立上芳養中学校 教頭 藤田万愉子

### 1. 単元名

「自分で守ろう、自分の命。みんなで守ろう、みんなの命」 ～教師と生徒の主体的な判断・行動で、みんなの命を守る～
--

### 2. 単元の目標

「生徒は守られるべき存在」ではなく生徒自身が「自分の命を守る」ために、主体的に行動できる力を育む。

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

本単元は、生徒が「自分の命を守る力」を育てるために、「最先端の防災学習とは」「想定外を想定する」「情報伝達シミュレーション」「シン避難訓練」を教材として取り上げる。特に、慶應義塾大学・大木聖子先生が開発した「シン避難訓練」は、生徒の主体的・対話的な学びを促す優れた教材である。

#### (2) 生徒観

本学年の生徒は、幼稚園から共に育ってきている関係性もあり、生徒間の仲が良く、お互い助け合い、協力して課題に取り組むことができる。また、授業や教育活動に積極的に参加し、自分の意見やアイデアを共有することもできる。みんなが発言しやすい雰囲気がある。しかし、一方で、小さいコミュニティーの限られた人間関係の中で育っているので、多様な考えや意見、価値観に触れる機会が少ない。学校教育目標であり、本校の合い言葉でもある「主体的に♪」をキャッチフレーズに、あらゆる教育活動において主体的に取り組む態度が育むよう心がけている。

#### 教員観

本校の教員は「主体に判断・行動できる生徒の育成」を目標に教育活動を主体的に展開できる教員である。教科指導や学校行事の充実のために、惜しまず力を発揮してくれ、そのおかげで、生徒たちも充実感と達成感を感じながら学校生活を送ることができている。しかし、平和な地域と良好な人間関係のおかげで危機管理へのアンテナが少し低いように感じる。生徒の安全を守るために、危機管理意識を高めさせたい。

#### (3) 指導観

本指導では、生徒が「自分の命を守る力」を育むことを最も重要な目的とする。従来の避

難訓練が「決められたルートをただ移動する」形式的なものになりがちであるのに対し、本授業では、慶應義塾大学・大木聖子先生の提唱する「シン避難訓練」の考え方を取り入れ、児童が自ら考え、判断し、行動する力を育てることを重視する。災害は予測不能であり、マニュアル通りに動けない状況が多く存在する。そのため、生徒が「その場で最善を考える力」を身につけることが、真の防災教育であると考えている。

#### (4) ESD との関連

- ・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

多様性…本校で行われている避難訓練は、形式化、形骸化したものである。また訓練をやること自体が目的になっており、災害時に必要な力の育成になっていないように思う。多様で新しい防災学習に触れ、災害時は自分で判断して行動しなければならないこと気づき、意識と行動の変容を促したい。

連携性…災害時には、世代を超えたつながりが大切になってくる。お互いに支え合う、助け合うという気持ちを育てたい。

- ・本学習で育てたい ESD の資質・能力

##### 未来を予測して計画をたてる力

今の避難訓練では、本当に災害が起きたとき正しい行動がとれるのか考え、想定外を想定する、当たり前を見直す。

##### つながりを尊重する態度

災害時、お互いに「声をかけあう」だけでも大きな安心、大きな力になるので、普段から相手を思いやった声かけや行動ができるようにしたい。

- ・本学習で変容を促す ESD の価値観

自然環境の保全を重視する。

幸福感に敏感になる。幸福感を尊重する。

- ・達成が期待される SDGs

3、すべての人に健康と福祉を

4、質の高い教育をみんなに

11、住み続けられるまちづくりを

#### 4. 単元の評価規準

ア【知識・技能】	イ【思考・判断・表現】	ウ【主体的に学習に取り組む態度】
災害や地域の課題を自分ごととして捉え、問いを立てている。	想定外の状況でも自ら考え、行動を選択している	他者と協力し、異なる意見を尊重しながら課題に取り組んでいる。

## 5. 単元の指導計画

時	主な学習活動と内容	◇教師の支援	△評価
1	最先端の防災とは（生徒と）		
	①あなたの危機管理能力・意識は高い？ ②どうしたら高められる？ ③そもそも、なぜ安全教育をするの？ （目標・方針の共有） ④学校安全指導者養成研修会で学んできたことを伝達する。	◇安全教育の意義を確認する。  ◇自分が見聞き体験したこと、学んだことを話す。	△ア
2	想定外を想定する（生徒と）		
	①地震が起きたとき、学校はどうなっているか考える。（校舎の様子、教室の様子） ②あなたのクラスの生徒の状態はどうなる？（1人ずつ想定する。）	◇グループで意見を出し合う。  ◇学年単位で話し合う。	△ア
3	情報共有シミュレーション（教員が）		
	①災害時、停電が発生したと想定して、その中でも、意思疎通が図れるかシミュレーションする。 ②課題は何か話し合い、改善し、全職員共通のルールをつくる。 ③そのルールのもと、もう一度情報共有訓練をする。	◇実際にやってみることで課題が見えるようにする。 ◇課題に気づき、改善するプロセス大切にする。	△ウ
4	シン避難訓練（生徒と）		
	①生徒とともに、「余震あり、停電あり、教室内避難」の設定で避難訓練をする。 ②振り返りをして、危機管理マニュアルの見直しをする。（教員が）	◇今までの避難訓練とは違うことに気づき、実際に想定して行動できるようにする。	△イ  △ア

### 【参考サイト】

慶應大学 SFC 防災社会デザイン研究室のホームページ <https://bosai.sfc.keio.ac.jp/>

## 6. 成果と課題

まずは、学校安全の組織活動を推進するために、教員の意識の変容と協力体制の構築に力を入れた。教員の学校安全に対する心の持ちようや危機管理意識を高めて欲しかったので、校内研修を充実させた。結果、危機管理に関する校内研修を年間4回、全校生徒向けの避難訓練や防災学習が7回、1年生が地域に繰り出して地域の危険箇所を取材し、動画にまとめて、全校集会で発表し、危険箇所の注意喚起をするという取組も行うことができた。これらの取組回数からも、教員また生徒の防災意識、危機管理意識が高まったことがわかる。生徒と教員の振り返りにもそれは顕著に表れている。また、今年度は、避難訓練をした後の振り返りを充実させるよう心がけた。避難訓練後、その場で集まって、「こうすればよかった」ところをリストアップし、対応策を教員みんなで考えた。そこで出た意見は、危機管理マニュアルに反映したり、必要な物品を即時に購入したりすることができた。このように、PDCA サイクルを上手く回せたことも成果としてあげられる。

### 生徒の振り返りより（不審者対応避難訓練）

- ・ 今日の訓練が本番の時に活かされるのを感じると、練習が大切な理由が実感しました。
- ・ 自分の命が最優先ということを改めて分かった
- ・ 今日は少し逃げるのが遅かった気がします。先生の指示を聞くまで固まったままだったのでこれからもっと素早く逃げようと思いました。
- ・ 不審者が入ってきた時に瞬時に判断をすることができなかつたので次回からは素早く判断し、自分の身を守る行動をとれるようにしたいです。
- ・ 実際に不審者が入ってきたときは、パニックになったり、怖くて声が出なかったりすると思うので、教室に緊急用の、音が鳴るものがあつたらいいと思った。
- ・ 不審者と大江先生が戦っているときに大江先生の指示がでるまで動くことができなかったから、もう少し自分で判断して動けるようになりたいです。

### 教師の振り返りより

教員同士・本部との連携や情報共有は適切でしたか？

不十分と答えた教員 4/10 →情報共有の仕方を検討する必要がある。

やはり「先生の指示があるまで動けなかった」など、「主体的に判断・行動する」ことができなかったと感じた生徒が多いことから、避難訓練を自分事のできるような手立てがより必要だと感じた。「実際にやってみて、そこで感じた生徒の意見を反映し、改善して、またやってみる」この繰り返して、主体性を育てていかなければならないと思う。

生徒に「自分の身を守るために主体的に判断・行動する力」を育むために、教師として

どのような手立てができるかを、本校の教員に考えてもらい、実際に生徒への指導をどのように行うかの提案としてこの指導案を作成した。この指導案の実践は、第1時、第2時、第4時を行うことができた。まず、全校生徒と全教員にむけて「なぜ、避難訓練するのか？」を考えさせ、目標・目的を共有した。自分で自分の身を守るためにとっさの判断が大切なことはわかっているが、行動に移すことは大変難しいと感じている生徒や教員も多かったので、「知識をリアル（実生活や実際）に落とし込むグループワークを行った。地震の動画を見せたり、研修での学びを伝達講習したりした上で、「自分の身を自分で守るためにどのような避難訓練をしたらよいのか」を生徒・教員に考えさせた。

#### 生徒と先生みんなで考えた避難訓練・防災学習

##### 生徒

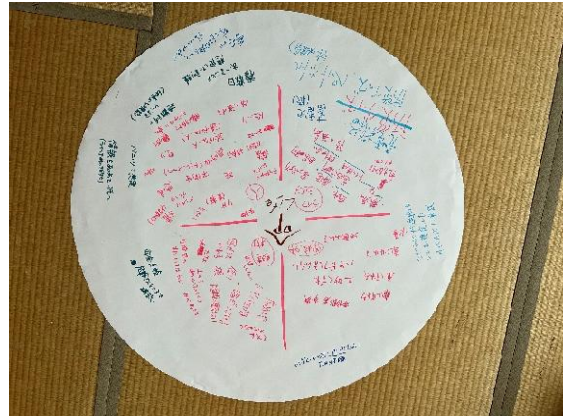
- ・ 余震が起きたことにそなえた訓練
- ・ けが人が出たときに対応できる訓練
- ・ すぐ冷静になれるようになる訓練
- ・ 避難経路が使えない時の対応
- ・ 過呼吸になったとき、普通の呼吸ができるような対処を知る。
- ・ 停電に備えた訓練（地震が発生すると停電するから）
- ・ 誰かのサポートができるようになる訓練（発災時、なかなか人は落ち着けないから）
- ・ 余震が来るまでの時間→逃げる、どこに行くか
- ・ けがをした人をどうやって一緒に逃げるか
- ・ けが人が多数であることを想定した訓練→人の支えや運び方、手当の方法
- ・ 校内放送が使えなくなった時を想定した訓練→メガホンをいろいろなところに置く。知らせる方法、どのように伝えるか。
- ・ いつでもすぐに机の下などにかくれるようにする
- ・ 自分の頭で考える訓練
- ・ 学校でいつ起こるかわからない避難訓練
- ・ 避難経路を制限する
- ・ 一人一人（自分）で行動できるように個人でもやってみる。
- ・ 家族、親戚も含めて訓練する
- ・ へたな行動をしない
- ・ パニックが伝染しないようにする
- ・ 余震などもふまえた
- ・ 地震が起きている時の訓練
- ・ 先生の言葉で動かず、取るべき行動を作る。
- ・ 避難する場所を複数考えとく
- ・ 先生がパニックになっている

- ・ 割れたガラスや落ちたもののところに物を置いて、足場を選んで避難する
- ・ 上から物を落とす。
- ・ 地面が不安定な場所での訓練
- ・ 一人だけの訓練
- ・ いつくるかわからない訓練
- ・ 指示のない防災学習
- ・ 倒壊しそうな場所を想定した訓練
- ・ 学校の危ないところを知る。
- ・ 校舎の中だけではなく運動場や体育館
- ・ 集団行動の訓練
- ・ 地面が不安定の時の訓練（どうしたらいいか）
- ・ 人を安心させる訓練
- ・ 体調不良などで倒れてしまった人を運んで避難する訓練
- ・ 学校内の安全なところを知る学習
- ・ 先生や大人がいない状態での訓練
- ・ 今までの訓練では起きないことになっていることを想定した訓練
- ・ 地震で物が落ちてきても大丈夫なようにする
- ・ 本当の地震にあった時の気持ちを+ $\alpha$ して行動できる訓練
- ・ 建物の外には逃げずに、校舎内でガラスが散乱しそうな場所などを避けて避難する訓練
- ・ 電気を消した訓練
- ・ 体調不良役を作って訓練
- ・ 安全な避難経路を複数つくり、人を分散させる。
- ・ 過呼吸の対処の仕方
- ・ 避難したあとの行動も知り、体験する
- ・ VR ゴーグルで体験

#### 教師

- ・ 放送なし
- ・ 教師なし（死んだ、ケガした）
- ・ バラバラで行動しているときに発災
- ・ 生徒の中で” 防災担当”を決める→この生徒らが中心となった避難訓練を実施（たとえば、生徒誘導訓練、身を守る訓練）
- ・ ライフラインが途絶えることを想定したサバイバル実践
- ・ 防災グッズ
- ・ ペットボトル（水の確保）
- ・ 蓄電池（蓄電機）

- ・ 充電機器
- ・ 複数回起こることを想定した訓練
- ・ 避難所にとどまる（日頃から確認）
- ・ パニックを想定
- ・ 情報を集めて紙へ（ライフ豆知識的な）
- ・ 普段から家でも避難について話し合っておく
- ・ 安全点検、危険なところを確認
- ・ いざというときにフリーズしない訓練



多くの考えが出てきた中で、「自分で考えて判断して行動すること」を意識させたかったので、「指示のない避難訓練」として「地震ショート訓練」を行った。自分たちで考えた訓練を行ったことで、自分事として捉えることができている点、また従来の訓練ではなかなか育めなかった、自分の頭で考える主体性が少し育めた点が成果だと思う。また、防災主任による「全校防災集会」を開き、振り返りを行った。振り返りを行ったことで、一人の学びが何人にも広がった。既存の形骸化した避難訓練から脱却し、自分たちで考えて創り出す「上芳養中学校のシン（真、新、深、心）避難訓練」の大きな第一歩を踏み出せたことが大きな成果だ。この訓練を通して、「もっとこうすればよかった」や「次こんな訓練をしたい。」という意見がどんどんでてきていることも大変嬉しく思う。この気づきを次回につなげ、より実践的な、より現実的な、より自分事の避難訓練を生徒と教師共に創っていこうと思う。

#### 教員の振り返り（事後アンケート抜粋）

今回の訓練を受けて「これから、もっとこういう訓練が必要だ」と思う訓練は何ですか？ 10 件の回答

- ・ 地震時のDCHは出来ていた。地震がおさまった後の行動はどうすればいいかの訓練も必要だと思いました。
- ・ 地震が収まった後の行動も含めていってはどうか

- 地震が終わった後の避難行動も必要かと。
- ①「今回自分のとった行動が最善であったかどうか」の検証や再考（他者の意見をふまえ）、②少し日時をずらした時の訓練、③最終避難場所（運動場）への安全な移動方法の構築
- ショート訓練ウィークと告知していたので、身構えていた部分はあったと思います。全く告知していない状況で、してみるのもアリかなと思いました。パニックになる生徒もいるかなと思いますが、そこでパニックになる生徒は実際に来たときには絶対になると思います。それも1つの学びかなと思います。
- 3つの動作のあと実際に逃げてみる。その上で、余震ありにしてみる。
- おうちにいたとき、避難所までのルートを確認・危険な場所を考える授業などもいいかと思います。

#### 教員の振り返り（事後アンケート抜粋）

- 指示のない訓練は、自分たちの行動がよくわかるからとてもいいと思った。自分で考えるのは難しかったが良い体験になった。
- 先生のない時の訓練こそ、より身を守ることができるようになった。実際の状況を想像しながらの訓練がやりやすかった。
- 常にアンテナを張ることができた。普段から「ここで地震が起きたら…」と考えるクセをつけたい。
- 普段訓練したことのない場所（トイレ・更衣室等）でできたから、いい訓練になった。急に危険な状況に至った時の自分の行動を知ることができた。
- 先生たちが言っていたことを意識して冷静に行動できた。自分の反応速度が速いことにも気づけた。
- 自分たちが周りを見ながら率先して行動できた。いざという時にこの訓練を思い出して動くことを目標にしたい。
- 余震が来ると思わず、少し油断してしまいました。次は余震を前提とした落ち着いた行動を意識したいです。
- 身を守るまではできたが、その次の行動についてあまり考えることがなかった。避難まで自分らでできるようになりたい。
- 事前告知がなかったらもっと行動が遅れていた。実際の地震では立つことさえできないと思うので、さらなる対策をしていきたい。

現在の学年終了時に目指す姿

「生徒は守られるべき存在」ではなく生徒自身が「自分の命を守る」ために、主体的に行動できる力を育む。



「受け身の学びでは、社会で生きて働く力は身につかないんだな」と気づいてくれた。

「自ら考え判断し行動できる人」を育てるぞ。

学校経営戦略会議と年度当初のガイダンス  
本校の学校教育目標を全教員と生徒と共有して、めざす方向のベクトルをあわせる。これからの社会で必要な力を知ること、あらゆる学校生活の活動が「主体性」を育む場であることを確認する。

教科指導  
「生徒が主体的に学ぶ授業」を合言葉に、教材研究をし、主体的な学びをしかける。アクティブラーニング、自由進度学習、PBL、プレゼン、アウトプット重視、縦割り授業、学び合い

校内研修  
総合的な学習の時間で生徒へアウトプット  
○主に養いたい ESD の資質・能力  
未来を予測して計画をたてる力  
今の避難訓練では、本当に災害が起きたとき正しい行動がとれるのか考え、想定外を想定する、当たり前を見直す。  
つながりを尊重する態度  
災害時、お互いに「声をかけあう」だけでも大きな安心、大きな力になるので、普段から相手を思いやった声かけや行動ができるようにしたい

校務分掌  
各校務分掌で全教員に伝達したいことを、伝達する研修会を企画運営。1ヶ月に1回の研修を通して、学び合う。

「この地域で育ったことは幸せだなぁ。地域のために何できることをしたい。」と感じさせたい  
地域の産業である「梅ぼし」が防災食として活用できるのでは？

地域学習・防災学習  
地域の伝統行事や歴史を知ること、郷土の魅力に気づき、愛着がわく。  
地域学習や地域防災学習を通して地域の課題を発見し、その解決に向け、行動する。  
地域産業（梅）の防災面での売り込み

校内研修(危機管理について)  
学期に一回の防災学習をアップグレードする。  
1学期、不審者対応→事後振り返りで意見交換  
夏休み→熱中症対策、緊急時の対応（AED）、災害時の声掛けの重要性  
さまざまな研修に参加し、危機管理について学ぶ。  
3学期→今回の「シン避難訓練」

教員の意識をかえることで、生徒の学びの質が向上した。

教員も主体的に学びあえるこのシステムがグッド。

研修での学びを教員と生徒へ還元するぞ